

## 会議録

会議名	令和元年度（2019年度）第2回八王子市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進懇談会		
日時	令和2年（2020年）2月5日（水） 午後7時 ～ 8時45分		
場所	八王子市役所 本庁舎事務棟8階 805会議室		
出席者氏名	参加者	浅野里恵子、荒井富雄、石川敏之、澤昌秀、中庭光彦、古谷純、細谷幸男、三島雄介	
	事務局	小柳悟（都市戦略部長）、今川邦洋（都市戦略課長）、石川智也（都市戦略課主査）、興梠翔大（都市戦略課主任）、世古望（都市戦略課主事）	
	その他市出席者	植原康浩（総合経営部長）、小峰修司（市民活動推進部長）、小俣勇人（子ども家庭部長）、廣瀬勉（産業振興部長）、太田國芳（都市計画部長）	
欠席者氏名	伊藤史子		
次第	<p>1 開会</p> <p>2 議事</p> <p>（1）まち・ひと・しごと創生長期ビジョン（令和元年改訂版）及び第2期「まち・ひと・しごと創生総合戦略」の概要について</p> <p>（2）八王子市まち・ひと・しごと創生総合戦略の改定について</p> <p>3 その他</p> <p>4 閉会</p>		
公開・非公開の別	公開		
非公開理由	-		
傍聴人の数	なし		
配付資料名	資料1	まち・ひと・しごと創生長期ビジョン（令和元年改訂版）及び第2期「まち・ひと・しごと創生総合戦略」（概要）	
	資料2	八王子市まち・ひと・しごと創生総合戦略の改定について	
	資料3-1	「八王子市まち・ひと・しごと創生総合戦略」数値目標・重要業績評価指標（KPI）	
	資料3-2	令和元年度（2019年度）改定により「参考指標」とするもの	
	参考	まち・ひと・しごと創生長期ビジョン（令和元年度改訂版）令和元年12月20日 第2期「まち・ひと・しごと創生総合戦略」令和元年12月20日	
会議の内容	別紙のとおり		

## 1. 開会

新規参加者紹介

### 【事務局】

- （参加者の紹介及び挨拶）
- （座長の選任）

## 2. まち・ひと・しごと創生長期ビジョン（令和元年改訂版）及び第2期「まち・ひと・しごと創生総合戦略」の概要について

説明

### 【事務局】

- （配付資料1についての説明）

意見等

### 【中庭氏】

- ・国の説明であり、市の現状を表しているわけではない。
- ・多摩市では、東京一極集中の恩恵を被り、人口は減少していない。
- ・特別区との距離がネックとなり、八王子市では人口減少している。

### 【荒井氏】

- ・昨年子どもの出生数は90万人を切っており、これは国の予測より2年早い減少となっている。
- ・八王子市は、国の方針を踏襲するだけでなく、独自の施策を考えていかなければならないと思う。

### 【澤氏】

- ・国がいう「地方」とはどこを指しているのか。

（事務局から説明）

- ・東京圏と言われている首都圏以外を地方と捉えている。八王子市は、国のいう東京圏にあたるが、地方の側面もあると考えている。これらを踏まえて施策を展開していかなければならない。

### 【古谷氏】

- ・国は地方の若者の就業率が改善していると分析しているのは、なぜか。
- ・一方で、東京一極集中が進んでいるのに、なぜ改善しているといえるのか。どう分析しているか。

（事務局から説明）

- ・国の捉えている改善は、当初見込んでいた就業率の低下より、現状が低下していない状況を示している。
- ・地方の人口減少は進んでいるので、引続き就業環境を整えることが必要である。

### 【古谷氏】

- ・若者の就業率の改善と東京一極集中の因果関係はないということか。

### 【中庭氏】

- ・全国の自治体で人口の取り合いをしたなかで、東京に一極集中した。
- ・しかし、県庁所在地への人口も集中してきている。

- ・県庁所在地の雇用や就業率は、改善したとまでは言えないが、以前と比べると、有効求人倍率などは若干改善している。
- ・一方で、郊外についての人口減少は激しい。
- ・日本全体でみると「失敗とは言えない」ということではないか。

**【荒井氏】**

- ・人口流入している年齢層は、どの層が多いのか。

(事務局の説明)

- ・若年層が多い。

**【石川氏】**

- ・八王子市在住の人が、地方に移住した事例もある。
- ・八王子市の魅力を高めて、施策を打つ必要がある。

**3．八王子市まち・ひと・しごと創生総合戦略の改定について**

説明

**【事務局】**

(配付資料2、3-1、3-2について説明。)

意見等

**【中庭氏】**

- ・国の新たな視点について、KPIには追加しないのか。
- ・本文に明記すると説明があったが、どのタイミングでどのように記載するのか。

(事務局から説明)

- ・新たな視点について、指標は設定しない予定。
- ・今年度の改定で、国の新たな視点の考え方について本文に記載し、施策の事業例も記載する。

**【古谷氏】**

- ・八王子ビジョン2022は10年前に設定され、10年後を見据えている。他の自治体では、人口減少が落ち着いた段階となる2050年などを見通している。八王子の次期長期ビジョンが仮に10年の計画とすると、2032年は短くないか。

**【総合経営部長】**

- ・国・都は団塊の世代が後期高齢になった2040年頃を見据えている。
- ・それを踏まえ、八王子市の長期ビジョンについては、2040年を見据えて策定していく予定。
- ・また、八王子市制が100年を迎えたときに、「次の100年」がひとつのテーマであった。
- ・次の100年を見据えつつ、2040年に向けてどうあるべきかを考え、次の長期ビジョンを策定していく。

**【古谷氏】**

- ・目指すべき将来の方向の具体的な姿を知りたい。

(事務局から説明)

- ・長期的な視点をもって、地域の声を反映するなかで、市民とともに将来の方向性も含めた次期計画を検討していきたい。

### 【三島氏】

- ・最上位計画との乖離を是正するために、3か年延長とするのは理解した。
- ・参考指標の導入により、KPIが捉えられなかったものを是正することも理解した。
- ・次期計画を策定するまでに、国の重要項目を3か年KPIに入れないことは、他市から3年遅れないか。
- ・本文への記載で、アクションにつながるのか。

#### (事務局から説明)

- ・新しい視点については、指摘通り対応が必要であるとはもちろん考えている。
- ・具体的な施策そのものは、新しい視点を含めて取り組んでいく。
- ・総合戦略のなかに、具体的な事業を明記しないとしても、新しい視点を踏まえ施策を反映していく。
- ・他市から遅れることはない。

### 【石川氏】

- ・多摩地域の他市と比較しても遅れることはないか。

#### (事務局から説明)

- ・ない。Society5.0やSDGsは、今後市として取り組んでいかなければならない重要課題であることに変わりないので、本市としては、多摩をリードする中核市として、他市の事例になるようしっかり取り組んでいく。

### 【荒井氏】

- ・昨年11月の中核市シンポジウムで、SDGsの国連大使が、もっとSDGsに取り組んでいかなければいけないと言っていた。新しい視点に入っているSDGsの取り組みを3年先送りするのはいいかなものか。

#### (事務局から説明)

- ・取り組みを3年先送りするのではない。
- ・すでに様々な取り組みを進めている。SDGsについては、平成30年度に取り組み方針を決定して進めているが、更にSDGsに関する市民への周知が必要と考えている。
- ・総合戦略のなかで、個別事業として掲げることなく、市全体の施策のなかで展開していきたい。

### 【総合経営部長】

- ・実施計画であるアクションプランに項目が出されたものは、市の施策として反映されている。
- ・個々の項目は、事業例として総合戦略に掲載していく。

### 【荒井氏】

- ・以前の懇談会で、澤氏が八王子市は10年遅れていると言っていたと記憶している。

### 【澤氏】

- ・ニュータウンにおいては、八王子市の道路などは、多摩市と比較して開発時期が遅く、まだ新しいので切迫感を感じていない。
- ・もっと先を見据えて取り組んでいる自治体もあるので、先行して検討してもよいと思う。
- ・総合戦略を先送りにするのではなく、八王子ビジョン2022を前倒したほうが、安心する。
- ・八王子ビジョン2022が今の時代にあっているのか、疑問もある。
- ・3年延長することに関する説明は、工夫が必要である。

(事務局から説明)

- ・八王子ビジョン 2022 の改定は、現在検討等を行っている。総合戦略は 2023 年以降に策定していきたい。

【総合経営部長】

- ・八王子ビジョン 2022 も 5 年経過した段階で中間見直しを行っている。
- ・SDGs などの新しい要素も追加している。

【澤氏】

- ・今回 KPI を見直しすることで、時代に合ったものになっている。
- ・基本構想・基本計画に合わせるという説明ではなく、指標の妥当性、他計画の見通しを踏まえ、参考指標を設定することで、時代に合った総合戦略を策定することができる。と伝えたほうが伝わりやすい。

(事務局)

- ・参考にさせていただく。

【古谷氏】

- ・既に行っている事業を、SDGs に関連付けることを企業ではやっている。
- ・今から、ゴールやターゲットを設定するとよいと思う。

【中庭氏】

- ・参考指標の内容について、質問がないがよい。
- ・参考指標について、アウトプット型の指標が相変わらず多い。これで実際の成果を測れるのか。
- ・資料 3-2 13 のファミサポの代替案が人口増に繋がると考えているのか。その他の指標も人口増へ因果関係があると考えているのか。
- ・国は、「定住人口についてはそれほど固執しなくて良い」と示している。これは、転入者の質、市内で生まれた方を定住させるため、人づくりをする質の向上が重要と言っている。その媒介として関係人口、ツールとして Society5.0 をうたっている。
- ・新しい視点を取り入れていることを、次の総合戦略に掲載はなくとも、市民にわかるよう情報共有していく必要がある。
- ・雇用の質、クリエイティブな人をつくる、つくりたい。が国の考え。このことについてどう考えるか。

(事務局の説明)

- ・ご指摘のとおり。人づくりについては、子育て施策などを充実させること、さまざまな施策を複合的に充実させることが、関係人口等の増加につながるのではないかと考えている。

【都市計画部長】

- ・国の戦略は、まち・ひと・しごととひとつのストーリーで成り立っている。
- ・ひとつひとつは、すでに取り組んでいる。例えば、人口減少を見据えて、都市構造をどうしていくか、立地適正化計画に取り組んでいる。
- ・住民の意見を反映させ、施策はニーズに対応できていると考える。ただし、基本計画が先に決まってしまう部分はある。
- ・計画の総合的な部分は見極めて、整理する。
- ・ひとつひとつの施策と計画については、逐次、国の施策を反映しながら進めている。

【石川氏】

- ・町田市、南町田の都市計画と比較して八王子市はどうか。

【都市計画部長】

- ・都市計画は難しい時代である。民間と連携してまちづくりを推進している自治体もある。
- ・ただし、都市計画として正解かどうかはのちにわかっていくもの。
- ・八王子市は、町全体を見据えたなかで、魅力をつくりながら進めていく。
- ・先駆的な魅力再生として、郊外部において、地域の力を生かしたまちづくりである高月や小津の、地域レベルの活性化が実を結んできている。
- ・まちの中心部だけでなく、広く全体を見据えたまちづくりをしていくなかで、遅れているとは思っていない。

【石川氏】

- ・参考指標にある若者何でも相談窓口について、増加は必要だと思う。しかし、総合戦略のなかで若者・大学生が重点ターゲットとなっているわりに、細かい施策がみえにくい。もっと具体策があっても良いと思う。
- ・例えば、市の中心部に大学生、若者が集える文化施設がないと思う。
- ・どう八王子市を魅力的なまちにしていくか、具体策をみえるようにして欲しい。

【浅野氏】

- ・10年前に八王子ビジョン 2022 の策定も参加していた。
- ・10年前に想定していた10年後の状況と、現状はかなり違う。
- ・しかし、この10年の世の中の変わりようは想像を上回っている。
- ・前倒しで考えていくことには、賛成。
- ・待っている時間はないと思う。

【細谷氏】

- ・資料3-1 -6の指標、「大学と市との連携・協力事業数」はどのような指標か。

【市民活動推進部長】

- ・市と、大学生や大学が連携して行った事業の数である。

【細谷氏】

- ・若者には地元へ就職してほしい。
- ・人口の定着は雇用の安定であるため、定着を図っていきたい。

【澤氏】

- ・参考指標として追加された「若者なんでも相談窓口における相談・対応件数」は、相談件数目標を1000としているが、相談がない方が良い社会なのではないか。
- ・件数を設けると、相談窓口の職員は相談を受けなければならないと考えてしまうのではないか。
- ・「相談しなくてよい町」、「相談できる場がある」と示したほうが、明るい未来があるように感じられる。

(事務局から説明)

- ・一度件数を指標として、その後は単に件数を追うだけでなく、どちらが市民サービスの向上につながるのか、総合的に判断し、次の改定に反映していきたい。

【中庭氏】

- ・指標は、説明できることが大切である。

【荒井氏】

- ・八王子ビジョン 2022 が改定するが、次のビジョンには、この懇談会や、立地適正化計画、義務教育学校などがすべて集約するのか。
- ・それぞれのセクションがそれぞれで一所懸命に取り組んでいるが、最終的にどこが取りまとめるのか。

【総合経営部長】

- ・長期ビジョンは市の上位計画なので、今示された計画は、ぶらさがりようなイメージになる。
- ・長期ビジョンの策定は、今までの反省を踏まえて、それぞれの所管に携わってもらい、個々のセクションに持ち帰ることも検討している。
- ・策定スキームも含めて、現在検討しているところ。来年度の予算にも、反映していきたい。

【三島氏】

- ・資料 3-1 - 8 指標「市内の空き家率」について、他市では、そもそも空き家を出さないための空き家予防の体制、相談からのマッチング件数などを KPI としている。そうすることはできないか。
- ・空き家率を更新していただくだけでは、根本的な解決にならない。

【荒井氏】

- ・様々な法規制があり、空き家率の改善は難しい。

【中庭氏】

- ・そこをどうしていくかが八王子市の課題。
- ・意見について、意見書でも提出できるので後に提出を。

### 3. その他

説明

【事務局】

- ・本日いただいた意見を参考とさせていただき、令和元年度の改定に活かしていきたい。
- ・今年度中に新しい総合戦略を作成のうえ、公表する予定。
- ・平成 31 年度の総括もあるので、その際にご意見いただきたい。
- ・令和 5 年度の改定についても、協力いただきたい。

### 6. 閉会